

第三者評価結果報告書

総括	
対象事業所名	アスク上大岡保育園
経営主体(法人等)	(株)日本保育サービス
対象サービス	保育所
事業所住所等	〒233-0002 横浜市港南区上大岡西3-3-1コーラルハイムⅠ
設立年月日	平成18年4月1日
評価実施期間	平成24年06月～平成24年09月
公表年月	平成24年10月
評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者事業部
総合評価（優れている点、独自に取り組んでいる点、改善すべき事項等）	
【施設の特色】 <p>アスク上大岡保育園は日本保育サービスの傘下で、平成18年に開設した、中規模保育園である。保護者の勤務先の東京圏、川崎、横浜の京浜圏に近く、通勤に便利の良い京急上大岡駅より徒歩8分のところに立地している。</p> <p>園庭はあまり広くはないが、夏は大型ビニールプールに、滑り台を組み合わせるなど工夫して、ウォーターシュートのような遊園地的遊具構成を演出し、子どもたちは大喜びで水遊びを楽しんでいる。</p> <p>近隣に大きな公園が沢山あり、子どもたちの発達に合わせた格好の運動場で、外遊びの保育プログラムで活かされている。職員全員で打ち出した園目標の「元気に育て、心と体」を保育原点におき、職員間の連携を重視し、子どもの利益第一の実現に努めている。</p>	
【特に優れていると思われる点】	
1. 保護者の保育参加を自然に促す工夫 <p>定期的に催している保育参観週間および随時の参観日に、参観している保護者に紙芝居のセリフ読み上げや絵本の読み聞かせなど手伝ってもらっている。結果、自然に保育参加を経験することになり、保育参加に躊躇する保護者の抵抗感減少に効を奏し、月間数組の保育参加者の増加効果を得ている。</p>	
2. 深刻な子育て不安を抱く保護者への対応 <p>送迎の際、子育てに不安を抱える保護者の兆候を見出した時は、特別に、日々の子どもの話題を中心にした個人連絡帳をもち、繰り返し保護者の発信する不安の内容をメモを通して受取り、注意深く返答交信することにより、保護者の不安解消に効果を上げた。</p>	
3. 地域に溶け込んだ保育園運営 <p>地域の親子を対象とする「ベビーマッサージ」および「手作りおもちゃ」講習会を開催し、多数の親子の参加を得ている。また、港南区の「子どもフェスティバル」へも積極的に協力、参加し、</p>	

園の「パラバルーン」を貸し出して好評を得ている。港南中央ケアプラザの高齢者との交流会には子どもたちも参加し、高齢者と会話をし、歌を唄ったりして喜ばれた。子どもにとっては貴重な社会体験になっている。

【特に改善や工夫などを期待したい点】

1. 地域子育て相談のPRに今一つの努力を

見学来園者のアンケートや地域行事での子育て相談など、実質的な実績はあるものの、保育園前掲示板や独自ホームページに積極的な受入れPR文が見当たりません。地域の子育て中の保護者に対して、積極的な受け入れの表明を期待します。

2. 施設面積の手狭により制約される環境の改善

家族アンケートの中で、『施設設備』および『子どもは落ち着いて過ごせる』の設問で、「どちらかといえば不満」「不満」を合わせると、それぞれ35%、29%に達しており、施設への満足度は低くなっています。また、自由意見の中でも、施設の狭いことからの問題点の指摘が散見されます。狭いながらも、職員の工夫で子どもは楽しく過ごしていますが、職員が使用する空間も含めて制約が大きく、保育環境の改善について長期的視点から考慮する時期に来ていると考えられます。

評価領域ごとの特記事項

1. 人権の尊重

- ・子どもへの対応について職員は、話し方だったり、子どもの気持ちの受け入れだったり、何か起きた場合には常に業務基本マニュアルの原点に戻って考えるように、職員会議などで園長指導により再確認しあっている。また、子どものプライドを傷つけるような保育を行わぬように職員は研修等で学び、十分に認識している。
- ・子ども一人ひとりとのプライベートな対話は、事務室奥の職員ロッカーのコーナーはカーテンもあり、子どもが職員とひと目を気にせず話せる場となっている。
- ・個人情報の保護については管理マニュアルに基づいて全職員は守秘義務について周知している。保護者には園だよりやホームページなどを通じて個人情報保護に関し説明しており、写真などのホームページ掲載などに関しては保護者よりの承諾を得ながら進めている。
- ・性差については、園は遊びの役割や服装、持ち物など、また、名簿、散歩の順番や異年齢交流のグループ分けなどでの性別による区別をしていない。保護者に対する説明、話し合いなどでは、父親の役割とか母親の役割とかの固定的な性別役割の表現を避けるように配慮している。
- ・虐待が疑わしい場合は、設置法人や児童相談所などと連携して対応し、支援が必要と思われる保護者には個人連絡帳を利用してコミュニケーションを図り、信頼関係を築いて支援している。

2. 意向の尊重と自立生活への支援に向けたサービス提供

- ・幼児以上のクラスでは、保育室が手狭なため種類は限られているが、子どもは自分の好きなおもちゃを自由に取りだせるように配慮し、0、1歳クラスと2～5歳クラス室の両端には絵本、ブロックなどのおもちゃ遊びコーナー、お絵かきコーナーなど年齢に合わせた、また、自分一人で落ち着いて遊べるコーナーを用意している。
- ・毎日の保育プログラム（日案）は職員が子どもたちに良く説明してからスタートするが、遊んでいるうちに子どもたちの興味が高まり、プログラムの変更、

	<p>延長等の訴えがあると意見を取り入れ臨機応変に実行している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自由遊びは子どもの自主性を尊重し、自分で考えて遊ぶように、職員は過度にならない範囲で支援している。 ・園は年齢に応じたリトミック、体操、英語教室や折り紙（造形）授業などを行い、子どもたちの発達に応じた表現力育成を支援している。 ・日常以外の異年齢交流として3～5歳クラスを縦割り3クラスに分け、毎週金曜日に散歩など園外活動を行ったり、昼食、午睡も異年齢クラス単位で行い、秋口よりは2歳児も加わりクッキング保育やゲーム、お店屋さんごっこを行うなど、子ども同士の異年齢での関わり合いを支援している。 ・天気の良い日は必ず散歩や園庭遊びなどの園外活動を実施している。園庭には子ども用の安全なゴーカートを備えたり、年齢に合わせて遠距離で色々な運動がこなせる倉木公園まで散歩の距離を伸ばしたりして、遊び環境の選択、充実化には配慮している。
<p>3.サービスマネジメントシステムの確立</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保育課程は、子どもの最善の利益を第一義にした理念及び保育指針に基づいたものになっており、新入園児説明会及び年頭の保護者会開催時に説明している。指導計画は保育課程に基づいて、年齢ごとに年間、月間、週案を作成し、子ども達が興味を持っていることや子ども達の意見・気持ちを汲み取りながら、常に見直しを行っている。 ・安全管理マニュアルがあり、園の可動備品などは全て連結させ、固定備品は天井や壁との連結により全て転倒防止策が施されている。また、マニュアルには「災害対応手順」、「職員の自衛消防隊編成」、「緊急通報要領」などがあり、職員に周知していると同時に、玄関フロアに掲示され、緊急連絡体制が整備されている。 ・避難訓練は移動方法や災害の種類など毎回テーマを決めて毎月実施している。災害時の広域避難場所での集合地点は、毎年春の遠足で保護者も同行の上、広く周知を図っている。
<p>4.地域との交流・連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に育児相談をすることを知らせていないが、施設見学に訪れる保護者や電話での相談及び情報提供にに応じている。港南区主催の「子どもフェスティバル」や「保育園で遊びましょう」などの事業に参加して、地域の人にアンケートしたり相談コーナーで子育て支援に関するニーズを把握している。 ・港南区の保育園園長会や勉強会に出席して、近隣の保育園と一緒にテーマを決め、検討している。昨年は「ベビーマッサージ」や「手作りおもちゃ」の講習会を実施した。今年も計画中である。 ・夏祭りや近くの桜岡小学校を借りて行なった運動会は地域の人を招待している。また、上大岡小学校を見学したり、港南中央ケアプラザを訪問して交流会を行っている。 ・散歩に行く近隣の多くの公園及びお泊まり保育の三ツ沢や子ども自然公園の青少年野外センターなど地域の施設を有効に利用している。 ・ほぼ毎月行うクッキング保育のために、近くのスーパーマーケットへ買物に行ったり、天気の良い日はできるだけ散歩に出かけ地域の人と顔なじみになり挨拶を交わしている。
<p>5.運営上の透明性の確保と継続性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・職員が遵守しなければならない倫理規定は就業規則に明示されており、入社時の研修にて職員に周知している。設置法人にはコンプライアンス委員会があり、連絡先は全職員に周知している。設置法人より保育園運営に関する不正ケースなどの情報が送信されてくると職員会議で取り上げ、議題として話し合っている。 ・保育園の理念及び基本方針は《安心・安全を第一に》《お子様にとっていつまでも思い出に残る保育》《利用者のニーズにあった保育サービスを提供》《子ど



	<p>もの「自ら伸びようとする力」「後伸びする力」を育てる保育を》《子どもの感性や好奇心を自然な感じで伸ばす「五感で感じる保育」の充実を》を掲げている。また、子どもに向けた目標も「1. あいさつしましょう」「2. よいことかわるいことかかんがえましょう」「3. げんきにあそびましょう」と現在及び未来における子どもの最善の利益を考慮したものになっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設置法人のホームページにて財務諸表・会社の運営上状況などを公表している。 ・エコ活動についてはペットボトルキャップの回収活動を保護者会の協力で行っている。また、新聞広告やカタログ雑誌の折り紙への利用やコピー用紙の裏面利用などごみの減量、リサイクルに取り組んでいる。 ・すだれを利用したり、ゴーヤの緑化カーテンなどでエアコンの節電に努め、緑化推進にも寄与している。環境への考え方は、設置法人ポスターなどで宣伝し、これに従い、“節電、節水”などを実践している。
<p>6.職員の資質向上の促進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・園長は年間で3回の面談を行い、職員の満足度・要望などを聞いて助言している。その際、園長は職員に年間研修計画表を提出させ、園の理念に沿った福祉サービスを提供するために必要な知識・技術の習得ができるように職員の育成を計画している。 ・設置法人内にて様々なテーマの研修が行われており、職員は園長と相談の上、参加することができ、更に、横浜市や港南区で開催される研修に参加したり、社内のエリア別研修会でテーマを決め、検討及び作業をして社内では発表している。 ・設置法人は「保育士に求められる役割・能力表」に経験・能力や習熟度に応じた役割を明文化して職員の資質向上に取り組んでいる。 ・非常勤職員の指導はフロアリーダーが担当し、日常の業務に必要な情報や技術を伝達したり、受講した職員の研修レポートを回覧して内容を伝えている。 ・園は保育園の福祉サービス第三者評価を受けるなど、職員及び保育園の自己評価を行う仕組みがある。 ・全ての指導計画表及び保育日誌に評価・反省欄があり、特に月間指導計画表は更に振り返り欄を設けて職員の振り返りを促している。振り返りは週、月、年の指導計画で目標を定め、それに基づいて行っており、子どもの成長する過程などを重視している。

評価機関による評価



3つ：高い水準にある、2つ：一定の水準にある、1つ：改善すべき点がある

評価領域 I 利用者本人（子ども本人）の尊重

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>I-1 保育方針の共通理解と保育課程等の作成</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育園の理念及び基本方針は《安心・安全を第一に》《お子様にとっていつまでも思い出に残る保育》《利用者のニーズにあった保育サービスを提供》《子どもの「自ら伸びようとする力」「後伸びする力」を育てる保育を》《子どもの感性や好奇心を自然な感じで伸ばす「五感で感じる保育」の充実を》を掲げている。また、子どもに向けた目標も「1. あいさつしましょう」「2. よいことかわるいことかかんがえましょう」「3. げんきにあそびましょう」と現在及び未来における子どもの最善の利益を考慮したもものになっている。 ・ 保育課程は、子どもの最善の利益を第一義にした理念及び保育指針に基づいたものになっており、新入園児説明会及び年頭の保護者会開催時に説明している。 ・ 指導計画は保育課程に基づいて、年齢ごとに年間、月間、週案を作成し、子ども達が興味を持っていることや子ども達の意見・気持を汲み取りながら、常に見直しを行っている。
<p>I-2 子どもの発達や状況に応じた適切な援助の実施</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 入園前に親子面談を行い、子どもの様子をみたり、保護者の要望を聞いている。また、入園後の6月にも個人面談を行い、入園直後の子どもの状況を把握している。 ・ 入園時に保護者より子どもの健康や家庭の状況に関する書類を提出してもらい、子どもに関する情報を把握している。書類は個人別にファイルし、職員がいつでも確認できるようにして、日々の保育に活かしている。 ・ ならし保育は入園のご案内（重要事項説明書）にその考え方を記載して、子どもの状況・様子によって保育時間を延長していくことを保護者と相談している。 ・ 0～2歳児は個別の連絡ノートを利用し、保護者、職員がその日の子どもの様子を詳細に記録し伝えている。3歳児以上は送迎時に必要なことは口頭で連絡したり、クラス毎に活動ノートがあり、職員はその日の保育状況を詳しく書いて保護者はそれを読み確認している。 ・ クラスリーダーはクラス担当職員と子どもの発達や状況を相談し、月間、週案の振り返り欄及び評価・反省欄に記入して指導計画の見直しを行い、園長に報告している。

I-3 快適な施設環境の確保



- ・清掃はマニュアルに基づいて行い、清掃記録表を利用し日々のチェックをして清潔を保っており、各部屋は温湿度計を設置し、温度、湿度の管理は適切に行われている。
- ・温水の出るシャワーが備わった沐浴設備があり、汗をかいた後やお尻のかぶれなどに使用し、その後には清掃している。
- ・乳児室と幼児室がそれぞれワンフロアになっており、活動の内容によって、仕切りやマットなどを利用し保育室のエリアを分けて使用している。
- ・3, 4, 5歳児は異年齢保育をカリキュラムに入れて、保育室を割り振って行なっている。秋からは2歳児も行なう予定である。

I-4 一人一人の子どもに個別に対応する努力




- ・0～2歳児は個別指導計画を作成し、3歳児以上でも特別に配慮が必要とされる幼児にも個別指導計画を作成している。個別指導計画を作成及び変更したとき、面談や送迎の際に保護者に説明し同意を得ている。
- ・職員は子どもの発達状況の変化をとらえ、日誌に記述して関係職員と協議を行い、個人別月間指導計画の見直しを行っている。週案では特記事項として記述し、修正したことへの注意を促している。
- ・児童個人ごとの情報を家庭調査表、健康調査表、児童票に記録、保管し、進級時は児童票を基にして保育の引継ぎをしている。


I-5 保育上、特に配慮を要する子どもへの取り組み



- ・発達障害についての研修に参加し、研修報告を回覧したり職員会議で発表しており、関連文書はファイルして職員がいつでも確認できるようにしている。
- ・横浜市南部地域療育センターの巡回指導や設置法人から派遣される発達支援アドバイザーの訪問指導を受けている。
- ・障害のある子どもに対しては、個別指導計画を作成して対応し、巡回記録シートやケース記録を基に職員会議で話し合いを行なっている。
- ・虐待が疑わしい場合は、設置法人や南部児童相談所などと連携して対応し、支援が必要と思われる保護者には個人連絡帳を利用してコミュニケーションを図り、信頼関係を築いて支援している。
- ・食物アレルギー疾患の子どもには医師の指示書に基づき、代替食や除去食を提供する。また、保護者と通常半年に1回、必要なら随時面談し、綿密な連携を取っている。
- ・食事の提供時は手順を厳守し、栄養士と職員、職員同士のダブルチェックを行い、誤食防止に努めている。
- ・文化の異なる子どもの入園時は、文化や生活習慣の違いなどについてできるだけ保護者とコミュニケーションを取り、保護者の納得のいくように対応している。

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>I - 6 苦情解決体制</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・苦情受付窓口として、園長名、職員リーダー名及び第三者委員の連絡先を玄関に掲示している。また、外部への苦情受付機関として、入園のご案内（重要事項説明書）に港南区子ども家庭支援課を記載している。 ・意見箱を玄関に設置したり、行事毎にアンケートを実施して保護者が気軽に要望や苦情を表明できるようにして、保護者の意見を聞いているほか、年2回行う個人面談では直接保護者に園に対する意見を聞いている。 ・受け付けた要望・苦情は職員会議で話し合い、検討・改善し、職員全員に周知している。 ・マニュアルに基づいて、第三者委員を交えて対応する仕組みはできており、園単独で解決困難な場合は、設置法人や港南区子ども家庭支援課と連携して解決する体制がある。

評価領域Ⅱ サービスの実施内容

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>Ⅱ - 1 保育内容[遊び]</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児以上のクラスでは、保育室が手狭なため種類は限られているが、子どもは自分の好きなおもちゃを自由に取りだせるように配慮し、0、1歳クラスと2～5歳クラスには絵本読みやおもちゃ遊びコーナー、お絵かきコーナーなど、自分一人で遊べるコーナーを用意している。 ・毎日の保育プログラム（日案）は職員が子どもたちに良く説明してからスタートするが、遊んでいるうちに子どもたちの興味が高まり、プログラムの変更、延長等の訴えがあると意見を取り入れ臨機応変に実行している。 ・自由遊びは子どもの自主性を尊重し、自分で考えて遊ぶように、職員は過度にならない範囲で支援している。 ・子どもたちは散歩の折々には、近所の商店街の人々や通りがかりの親子にもご挨拶をし、職員は地域の人々とのふれあいを大切にしている。 ・園は年齢に応じたリトミック、体操、英語教室や折り紙（造形）などを行い、子どもたちの発達に応じた表現力育成を支援している。 ・日常以外の異年齢交流として3～5歳クラスを縦割り3クラスに分け、毎週金曜日に散歩など園外活動を行ったり、昼食、午睡も異年齢クラス単位で行い、秋口よりは2歳児も加わりクッキング保育やゲーム、お店屋さんごっこを行うなど、子ども同士の異年齢での関わり合いを支援している。 ・子どもへの接し方については、子ども一人ひとりに対しては公平に、目と目を合わせて子どもの意見を良く聞くように園長指導があったり、職員会議などで話し合いを行っている。 ・天気の良い日は必ず散歩や園庭遊びなどの園外活動を実施している。園庭には子ども用の安全なゴーカートを備えたり、年齢に合わせて遠距離で色々な運動がこなせる倉木公園まで散歩の距離を伸ばしたりして、遊び環境の選択、充実化には配慮している。

Ⅱ－1 保育内容[生活]



- ・食事については、幼児クラスでは子どもたちが食事に興味を持つように食育ボードに本日の料理の食材を掲示し、職員が説明したりしている。子どもたちに当番を決め、配膳などを当番が手際よく行い、食後は、子ども各自が自分の食器を決められた場所にきれいに積み上げ片づけるなど食事の役割分担を全うしている。
- ・毎月1回のランチメニューでは季節ごとの年中行事（6月はテルテル坊主、7月は七夕など）をテーマにした盛付けを行い、子どもたちは大喜びである。
- ・食材は安全な産地のものを購入し、産地を明示し、食器については全て磁器を使用し安全に配慮している。
- ・栄養士は、昼食、おやつを配膳後、保育室に入り、子どもとお話しをしながら様子を観察している。食事後の残食記録や毎月の給食会議でクラス担当職員の意見を聞きながら子どもの好き嫌いなどを把握し、献立や盛付け、調理方法などを工夫している。
- ・1か月の調理表は幼児用、乳児用の別に前月末に家庭に配布し、各クラス室内にも掲示している。毎年秋口に行われる保護者対象の試食会では、子どもたちの食べる量、味付け、調理の仕方などを保護者に体験してもらう機会とし、栄養士からのお話し等を通じ保護者の給食への関心を高めている。
- ・午睡はカーテンを引き、薄暗くして静かな雰囲気を作り出し、乳児クラスには静かなオルゴールBGMを流すこともある。乳児突然死症候群対策として、仰向けの姿勢維持と、0歳児は5分ごと、1歳児は10分ごとの子ども一人ひとりの呼吸チェックを行い記録に残し、2歳以上は全体的に様子を見て記録している。
- ・トイレトレーニングは、子ども一人ひとりの排泄リズムを保育日誌などに記録・把握することと、保護者との連絡帳や日々の会話、面談などでの連絡・連携で、子ども一人ひとりにつき無理のない対応を行っている。

Ⅱ－2 健康管理・衛生管理・安全管理[健康管理]



- ・健康管理マニュアルに則り、子どもたちの健康に関するデータは全て個人ファイルに保管し、職員は子ども一人ひとりの平熱、さらには保護者から入手した既往症情報からの留意点などを周知し、対応している。
- ・子どもが保育中に体調を崩した場合には、直ちに保護者に連絡を入れ、必要ならばお迎えを要請し、看護師、職員がお迎えまでの経過を記録して保護者に伝えるようにしている。
- ・健康診断は年2回、歯科健診は年1回嘱託医により行い、結果は個人ファイルに記録、保管されている。保護者には、健診結果用紙に記入して手渡し、内容的に必要な場合は嘱託医と連携し、保護者との健康相談にもものっている。
- ・感染症等への対応マニュアルがあり、感染症の知識、登園停止基準や保育中の嘔吐物処理対応などが明記されており、4月の保護者会では要点を記載したプリントを配り、保護者に対して説明している。

Ⅱ－2 健康管理・衛生管理・安全管理[衛生管理]



- ・衛生管理マニュアルがあり、各園から挙げられた意見を集約して設置法人により必要な都度検討見直しを行っている。
- ・マニュアルの内容について職員は入社時研修で習得した以後、見直されたマニュアルなどは園長会議などで園長が入手したものを職員会議で全職員に周知徹底している。
- ・職員は衛生管理マニュアルに則り、毎日の清掃チェック表により園内、園外の清掃、おもちゃなどの洗浄、消毒などを行い、清潔を保っている。

Ⅱ－２ 健康管理・衛生管理・安全管理 [安全管理]



・安全管理マニュアルがあり、園の可動備品などは全て連結させ、固定備品は天井や壁との連結により全て転倒防止策が施されている。また、マニュアルには「災害対応手順」、「職員の自衛消防隊編成」、「緊急通報要領」などがあり、職員に周知していると同時に、玄関フロアに掲示され、緊急連絡体制が整備されている。



・避難訓練は移動方法や災害の種類など毎回テーマを決めて毎月実施している。災害時の広域避難場所での集合地点は、毎年春の遠足で保護者も同行の上、広く周知を図っている。

・正職員の全員が救急救命法の資格を取得している。



・子どもがケガをしたときには軽傷であっても必ず保護者に連絡を取り、伝達ノートに記載の上、お迎え時には口頭で状況を報告するようにしている。そのうち、アクシデントレポートに記載し、発生状況の詳細な記録と同時に原因の究明、職員全員参加による再発防止策の立案に結び付けている。

・不審者侵入対策として、警備会社との契約により玄関ドアはオートロックを採用しており、来訪者を確認の上事務所内より遠隔操作で解錠している。園内には監視カメラを設置し常時警備会社の監視下であり、散歩時にはGPS機能を搭載した通報発信機を職員が持ち歩き、緊急時に発信すると契約の警備会社の職員が散歩先にすぐ来てくれるようにしている。



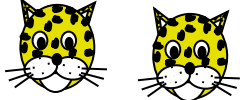
・横浜市・港南区スクール・ポリスネット情報から不審者情報が発信されたときには即掲示し、保護者にも周知するようにしている。

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>Ⅱ－３ 人権の尊重</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもへの対応に関わることで、職員は、話し方、子どもの気持ちの受け入れ、何か起きた場合などについて、常に業務基本マニュアルの原点に戻って考えるように、職員会議などで園長指導により再確認しあっている。また、子どものプライドを傷つけるような保育を行わぬように職員は研修等で学び、十分に認識している。 ・子ども一人ひとりとのプライベートな対話は、子どもが人目を気にせず話せる職員ロッカー室で行っている。 ・個人情報の保護については管理マニュアルに基づいて全職員は守秘義務について周知している。保護者には園だよりやホームページなどを通じて個人情報保護に関し説明しており、写真などのホームページ掲載などに関しては保護者よりの承諾を得ながら進めている。 ・性差について、園は、遊びの役割や服装・持ち物など、また、名簿・散歩の順番や異年齢交流のグループ分けなどでの性別による区別をしていない。保護者に対する説明、話し合いなどでは、父親・母親の役割などの固定的な性別の表現を避けるように配慮している。 ・職員間では性差による固定的観念が保育に表れていないかを職員同士チェックし合い、注意している。
<p>Ⅱ－４ 保護者との交流・連携</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回の園が主催する保護者会やそのあと引き続き開催される各クラス懇談会では、園の基本方針を説明し理解を得ている。欠席者には内容を後日プリントにて連絡通知している。保護者も参加する行事の後には必ずアンケートをとり、保護者からの意見の吸い上げや、保育方針の理解度把握に努め、結果を指導計画などに活かしている。 ・保護者とのコミュニケーションは、園長は保護者が迎えに来たときにできるだけその子どもの状況を口頭で伝えられるように、遅番の延長保育担当職員には必ず個人個人の記載のある連絡ノートに目を通し、短くても的確な状況説明をするように職員を指導している。また、0～2歳児は一人ひとりの連絡ノートで、3歳児以上はクラスノートによりその日の子どもの様子を保護者に伝えている。 ・保護者との面談は、保育室をパーテーションで仕切った、人に聞かれない奥の保育室か、人目に付かない事務所隣のロッカー室にて行っている。 ・「園だより」、「クラスだより」、「保健だより」、「給食だより」、体操、リトミック、英語の専任講師による「プログラムだより」を毎月発行している。 ・年間行事予定表は4月に保護者に配布し、保育参加の日取りも決めて保護者の計画は立てやすくしている。 ・保育参観はいつでもできる案内をしており、参観の際に紙芝居の読み上げなど、ちょっとした手伝いも依頼することで、保育参加への抵抗感をなくすべく努めている。 ・自主的保護者会の設立により、各クラス2名ずつ選ばれた委員による運営委員会が月1回活動しており、園は場所の提供等、協力している。運営委員会は園の夏祭り、運動会への協力や、フリーマーケットなどの自主企画について話し合っており、園は保護者会担当窓口職員を任命し、協力している。


評価領域Ⅲ 地域支援機能



評価分類	評価の理由（コメント）
<p>Ⅲ－１ 地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・港南区主催の「子どもフェスティバル」や「保育園で遊びましょう」などの事業に参加して、地域の人にアンケートしたり相談コーナーで子育て支援に関するニーズを把握している。 ・港南区の保育園園長会や勉強会に出席して、近隣の保育園と一緒にテーマを決め、検討している。 ・昨年は「ベビーマッサージ」や「手作りおもちゃ」の講習会を実施した。今年も計画中である。
<p>Ⅲ－２ 保育所の専門性を活かした相談機能</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に育児相談をすることを知らせていないが、施設見学に訪れる保護者や電話での相談及び情報提供にに応じている。 ・横浜市南部地域療育センター、港南区福祉保健センターなどと日常的に連携しており、得た情報は職員会議で報告し周知されている。 <p><コメント・提言></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域に対して、育児相談をしていることを園の門に掲示したり、ホームページでお知らせすることをお奨めします。

評価領域Ⅳ 開かれた運営




評価分類	評価の理由（コメント）
<p>Ⅳ－１ 保育所の地域開放・地域コミュニティへの働きかけ</p> 	<p>夏祭りや近くの桜岡小学校を借りて行なった運動会には地域の人を招待している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上大岡小学校を見学したり、港南中央ケアプラザを訪問して高齢者との交流を行っている。 ・散歩に行く近隣の多くの公園や、お泊まり保育の時は三ツ沢公園や子ども自然公園の青少年野外センターなど、地域の施設を有効に利用している。 ・ほぼ毎月行うクッキング保育のために、近くのスーパーマーケットへ買物に行ったり、天気の良い日はできるだけ散歩に出かけ、地域の人と顔なじみになり挨拶を交わしている。
<p>Ⅳ－２ サービス内容等に関する情報提供</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育園のパンフレットを港南区役所のウォールポケットに入れて、自由にとれるようにしている。また、保育園のホームページも開設して地域に情報を提供している。 ・電話での問い合わせ時に、保育に支障をきたさない範囲でいつでも見学ができることを案内し、見学者にはパンフレットを配布して詳細に説明している。 <p><コメント・提言></p> <ul style="list-style-type: none"> ・見学ができることを保育園の門に掲示したり、ホームページに載せて、利用希望者に周知することをお奨めします。
<p>Ⅳ－３ ボランティア・実習の受け入れ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア及び実習生を受け入れるためのマニュアルは整備され、関係書類は用意されている。 ・ボランティアは4年前に一度受け入れているが、実習生を受け入れたことはない。 <p><コメント・提言></p> <ul style="list-style-type: none"> ・育児の人材育成のために、実習生を受け入れる意向を設置法人に積極的にアピールすることを期待します。

評価領域 V 人材育成・援助技術の向上

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>V-1 職員の人材育成</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・園の運営に支障をきたすような要員配置となった場合は、園長は設置法人へ必要とする人材の補充を申告し、欠員補充が速やかに行われる体制となっている。 ・園長は職員に半期ごとに研修計画表を提出させ面接を行い、園の理念に沿った福祉サービスを提供するために必要な知識・技術の習得ができるように職員の育成を計画している。 ・設置法人内にて様々なテーマの研修が行われており、職員は園長と相談の上、参加することができ、更に、横浜市や港南区で開催される研修に参加したり、社内のエリア別研修会でテーマを決め、検討成果を社内で発表している。 ・非常勤職員の指導はフロアリーダーが担当し、日常の業務に必要な情報や技術を伝達したり、受講した職員の研修レポートを回覧して内容を伝えている。なお、幼児救命救急法はアルバイトの一人を除き、非常勤職員全員が受講している。

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>V-2 職員の技術の向上</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・園長は職員に自己査定表を作成させ面接を行うとともに、保育園の福祉サービス第三者評価を受けるなど、職員及び保育園の自己評価を行う仕組みがある。 ・全ての指導計画表及び保育日誌に評価・反省欄があり、特に月間指導計画表は更に振り返り欄を設けて保育士の振り返りを促している。 ・振り返りは週、月、年の指導計画で目標を定め、それに基づいて行っており、子どもの成長する過程などを重視している。 ・職員はクラス単位で気付いたことを話し合い、園全体に関わることは職員会議で提案し、課題を確認し改善点を検討している。
<p>V-3 職員のモチベーションの維持</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・「保育士に求められる役割・能力表」に経験・能力や習熟度に応じた役割を明文化している。 ・園長は普段から職員と業務について話し合っており、業務改善につながる内容であれば、職員会議で話し合い検討する。 ・園長は年間で3回の面談を行い、職員の満足度・要望などを聞いて助言している。

評価領域VI 経営管理

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>VI-1 経営における社会的責任</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員が遵守しなければならない倫理規定は就業規則に明示されており、入社時の研修にて職員に周知している。設置法人にはコンプライアンス委員会があり、連絡先は全職員に周知している。設置法人より保育園運営に関する不正ケースなどの情報が送信されてくると職員会議で取り上げ、議題として話し合っている。 ・設置法人のホームページにて財務諸表・会社の運営上状況などを公表している。 ・エコ活動についてはペットボトルキャップの回収活動を保護者会の協力で行っている。また、新聞広告やカタログ雑誌の折り紙への利用やコピー用紙の裏面利用などごみの減量、リサイクルに取り組んでいる。 ・すだれを利用したり、ゴーヤの緑化カーテンなどでエアコンの節電に努め、緑化推進にも寄与している。 ・環境への考え方は、設置法人ポスターなどで宣伝し、これに従い、“節電、節水”などを実践している。
<p>VI-2 施設長のリーダーシップ・主任の役割等</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・園の理念・基本方針は全職員にコピーを配布し、周知に努めていると同時に、職員会議などで園長はたびたび説明を繰り返し、さらに年三回の全職員の園長面談において理解度チェックすることで、職員の理解度については絶えず気を配っている。 ・重要な意思決定に関してこの一年間で特に保護者とよく相談して進めるようなアイテムはなかったが、保護者会や運営委員会とは意見交換がスムーズに進み、緊密に連携する下地が出来上がっている。保育行事等で変更が生じた場合は職員会議で協議の上、保護者には“目的・理由・経過説明”を手紙や掲示で行っている。 ・設置法人企画部は園の異なる部門として、組織的に園の運営に関し検討を進める機能を有する。 ・設置法人には職員の指導的役割を担う主任クラスを計画的に育成するプログラムを有する。現在、園長が主任機能と兼務の体制だが、主任の役割は職員の業務や個人的状況までを把握し、能力に合わせた種々の助言を行い、職員の状況に適応する最適なシフトを組む役割を担っている。 <p><コメント・提言></p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在、主任業務は園長が兼務していますが、早急に専任主任職員を立てられることを期待します。
<p>VI-3 効率的な運営</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・設置法人では、保育園運営に関するあらゆる情報を収集、分析し、園長会議などで各園に通達し周知を図っている。 ・受信した情報は直ちに職員会議に掛け、議論の上、全職員により対策を打ち出している。 ・5年長期計画「生きる力を育てる保育」、「地域に開かれた保育」などの前年中期計画を、今年度も踏襲して運営している。 ・設置法人においては次代の保育園運営に関し、外部の専門家の意見などを取り入れながら、新しいプロセス、仕組みを検討している。また、設置法人は幹部職員育成プログラムを設定し、計画的に人材育成を図っている。

利用者家族アンケート

施設名:アスク上大岡保育園

ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部

結果の特徴

◇ 調査対象

調査時点での在園児数61名、全保護者58家族を対象とし、回答は35家族からあり、回収率は60%だった。

◇ 調査方法

評価機関で準備した「家族アンケート用紙」と返信用封筒を、保育園から保護者に直接渡し、約2週間後までに密封して匿名で保育園で用意した回収箱に入れてもらい、密封のままの状態の評価機関が回収した。

◇ 総合満足度

施設に対する総合評価は、肯定的な回答は94%(満足40%、どちらかといえば満足54%)と高い評価を得ており、否定的な回答は6%(どちらかといえば不満6%、不満0%)あった。

◇ 比較的満足度の高い項目

- 1) 日常生活の「遊び」については、6項目全体の設問を合わせると(「満足」「どちらかといえば満足」)の回答が、86%になっている。
- 2) 「生活」については、「保育中にあったケガに関する保護者への説明」の設問を除いた設問全体で肯定的な回答は(おむつはずしに関する設問で対象にならない回答を除いて)、93%と高く、園における生活は高く評価されている。
- 3) 園と保護者との関係については、7項目全体の設問を合わせると、肯定的回答が88%となっている。
- 4) 職員の対応については、「アレルギー対応」の設問で対象外との回答を除いて、全設問合わせると、肯定的回答が93%と高い評価を得ている。

◇ 比較的満足度の低い項目

- 1) 日常の保育で「保育中のケガに関する保護者への説明など」の設問に対し、「どちらかといえば不満」の回答が20%に達している。
- 2) 園の快適さや安全対策については、「施設設備」および「落ち着いて過ごせる雰囲気」についての設問に「どちらかといえば不満」「不満」を合わせた回答がそれぞれ35%および29%になっており、自由意見でも施設の狭さを訴える記載が多く見られる。
- 3) 職員の対応について、「意見や要望への対応」の設問に対し、肯定的回答が79%にとどまっている。

調査結果

■園の基本理念や基本方針について

施設の基本理念や基本方針の認知	よく知っている	まあ知っている	どちらともいえない	あまり知らない	まったく知らない	無回答
	6%	63%	11%	20%	0%	0%

↓ 問1で「よく知っている」、「まあ知っている」と回答した方のうち

付問1

理念や方針への賛同	賛同できる	まあ賛同できる	どちらともいえない	あまり賛同できない	賛同できない	無回答
	58%	38%	0%	4%	0%	0%

■施設のサービス内容について

問2 入園した時の状況

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
見学の受け入れについては	43%	31%	0%	0%	26%	0%
	その他:見学していない。					
入園前の見学や説明など、園からの情報提供については	29%	54%	11%	0%	6%	0%
	その他:見学していないので。					
園の目標や方針についての説明には	23%	68%	6%	3%	0%	0%
	その他:					
お子さんの様子や生育歴などを聞く対応には	40%	46%	11%	3%	0%	0%
	その他:					
保育園での1日の過ごし方についての説明には	28%	60%	6%	6%	0%	0%
	その他:					
入園後に食い違いがなかったかなども含め、費用やきまりに関する説明については	31%	52%	11%	6%	0%	0%
	その他:					

問3 保育園に関する年間の計画について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
年間の保育や行事についての説明には	31%	46%	11%	0%	6%	6%
	その他:					
年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているかについては	23%	51%	3%	3%	14%	6%
	その他:					

問4 日常の保育内容について

遊びについて

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
クラスの活動や遊びについては (お子さんが満足しているかなど)	43%	51%	0%	0%	0%	6%
	その他:					
子どもが戸外遊びを十分しているかについては	37%	46%	11%	0%	0%	6%
	その他:					
園のおもちゃや教材については (お子さんが自由に使えるように置いてあるか、年齢にふさわしいかなど)	37%	46%	6%	0%	3%	9%
	その他:					
自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動については	31%	51%	3%	0%	9%	6%
	その他:					
遊びを通じて友だちや保育者との関わりが十分もっているかについては	46%	39%	3%	0%	6%	6%
	その他:					
遊びを通じたお子さんの健康づくりへの取り組みについては	31%	57%	3%	0%	3%	6%
	その他:					

生活について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
給食の献立内容については	57%	37%	0%	0%	3%	3%
	その他:					
お子さんが給食を楽しんでいるかについては	68%	20%	6%	0%	3%	3%
	その他:					
基本的な生活習慣(衣服の着脱、手洗いなど)の自立に向けての取り組みについては	54%	34%	0%	0%	9%	3%
	その他:					
昼寝や休憩がお子さんの状況に応じて対応されているかなどについては	46%	48%	3%	0%	0%	3%
	その他:					
おむつはずしは、家庭と協力し、お子さんの成長に合わせて柔軟に進めているかについては	51%	32%	0%	0%	11%	6%
	その他: まだ、始めていない。おむつが外れてから入園した。					
お子さんの体調への気配りについては	54%	37%	3%	3%	0%	3%
	その他:					
保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応には	43%	28%	20%	0%	3%	6%
	その他:					

問5 保育園の快適さや安全対策について

	満足	どちらかといえは満足	どちらかといえは不満	不満	その他	無回答
施設設備については	11%	51%	23%	12%	0%	3%
	その他:					
お子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気については	20%	48%	26%	3%	0%	3%
	その他:					
外部からの不審者侵入を防ぐ対策については	26%	54%	17%	0%	0%	3%
	その他:					
感染症の発生状況や注意事項などの情報提供については	29%	56%	6%	3%	3%	3%
	その他:					

問6 園と保護者との連携・交流について

	満足	どちらかといえは満足	どちらかといえは不満	不満	その他	無回答
保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会については	31%	60%	9%	0%	0%	0%
	その他:					
園だよりや掲示などによる、園の様子や行事に関する情報提供については	37%	54%	6%	3%	0%	0%
	その他:					
園の行事の開催日や時間帯への配慮については	29%	57%	11%	3%	0%	0%
	その他:					
送り迎えの際のお子さんの様子に関する情報交換については	31%	57%	6%	6%	0%	0%
	その他:					
お子さんに関する重要な情報の連絡体制については	29%	62%	6%	3%	0%	0%
	その他:					
保護者からの相談事への対応には	29%	53%	9%	9%	0%	0%
	その他:					
開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる場合の対応には	51%	40%	6%	3%	0%	0%
	その他:					

問7 職員の対応について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
あなたのお子さんが大切にされているかについては	51%	43%	3%	3%	0%	0%
	その他:					
あなたのお子さんが保育園生活を楽しんでいるかについては	57%	43%	0%	0%	0%	0%
	その他:					
アレルギーのあるお子さんや障害のあるお子さんへの配慮については	29%	46%	3%	0%	19%	3%
	その他:自分の子どもはアレルギーでないのでわからない。					
話しやすい雰囲気、態度であるかどうかについては	40%	51%	0%	6%	3%	0%
	その他:					
意見や要望への対応については	29%	53%	3%	9%	6%	0%
	その他:まだ意見を言ったことがない。					

問8 保育園の総合的評価

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	無回答
総合満足度は	40%	54%	6%	0%	0%

観察方式による利用者本人調査

平成 24 年 7 月 5 日、11 日

施設名：アスク上大岡保育園

ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部

◇0 歳児

(朝のおやつ)

おやつの時間。それぞれテーブルに向かって椅子に座り、食べている。月齢の高い子で自分でできる子は、クッキーを掴んで食べている。職員は小さい子どもを抱いている。おやつが終わると、すぐに子ども達は玩具の自動車を持ち、自動車遊びに熱中する。絵本を見ている子どもがいる。それぞれ好きなことをして遊んでいる。二人の子どもが泣き始めると、職員はすぐに抱っこしてあやし始める。

(排泄)

職員が手袋をして便を処理する。ウエットティッシュでお尻を拭き、ゴミ袋へ。子どもは気持ち良さそうに、手を上に動かしながら静かに寝ている。オムツを替えてもらい職員に抱っこされて、布団の上にそっと降ろされる。

(お散歩)

0 歳児クラス 8 人は、保育室から直接、玄関横の通路に用意された 4 人乗りバギー 2 台に分乗し、職員に帽子をかぶらせてもらったり、靴をはかせてもらった。職員 3 人は、周囲の景色や通り過ぎる人をキョトキョトと目で追いかける子どもに、道端の草むらから舞い立つチョウを教えたり、道を横切る猫を指さしたりして絶えず話しかけ、子どもの好奇心を呼び起こしているかのように見えた。職員の呼び掛けに対しては、何人かの子どもは目を輝かしながら、何か喃語で答えていた。散歩コースの、大型スーパー前の広い歩道では、やっと歩ける子が職員の支援を受けながら一生懸命に歩き、買い物のお母さんたちの声援を受けて得意そうだった。

(午前の読み聞かせ)

散歩から帰り、手足を拭いてもらい、オムツなどをきれいにしてもらった後は、昼食用のテーブル配置で椅子に座る。職員の、絵本を見せながらの読み聞かせに熱心に聞き入り、昼食までの時間を静かに待っていた。

(昼食)

2人の子どもは職員に優しく抱っこされてミルクを飲み、他の子どもはプラスチックの受けポケット付き前掛けを付け、職員からスプーンでの支援を受けながら、おいしそうに食事をしていました。自分でのスプーン操作ももう一息というところだった。

(授乳・午睡)

昼食が終わり、布団が敷かれた。子ども達は、部屋の中でははいはいしたり歩いたりしている。寝る前にミルクを飲む子のために、職員が哺乳瓶を入れたトレイを持って来て棚の上に置く。

歩ける子ども達はそれを見ると、寄って来て飲みたいような顔をする。

職員から、「ミルクを飲もうね」と言葉かけされると2人の子供が横になり、哺乳瓶を上手に自分で持ち、おいしそうにぐいぐい飲む。飲み終わるとごろんと寝返りをし、ゲップをした。

◇1歳児

(朝のおやつ)

朝のおやつ時間。2歳児の人数が少ないので、1、2歳合同で食べる。テーブルに向かって座り、みんなおとなしくおやつを食べたり、お茶を飲んでいる。最後の一人の子どもが食べ終わり、職員がキーボードで伴奏し、手を叩きながらみんなで「ごちそうさま」の歌を歌う。

1歳児は、職員が「お風呂の物語」の絵本を取り出し読み始めると、子ども達は真剣な顔をして聞いている。

(リトミック)

携帯電話のおもちゃで遊びながら、リトミックが始まるのを待つ。「さあ、始まるよ」職員が急いで玩具を片付け、キーボードを出す。その前に子ども達が1列に並び「宜しくおねがいします」の挨拶。講師の弾く音楽に合わせて、手を叩いたり、足を動かしたり、楽しそうに身体を動かしている。

(午前の保育室での遊び)

職員と子どもたちは一緒になって、CDコンポから流れる曲に合わせて、ビリビリ、ビリビリと歌いながら、新聞紙を沢山ちぎって、雪のように上からふりまき、床に敷いている。子ども達はその上を、落ち葉遊びのように転がって、大はしゃぎで、本当に楽しそうに遊んでいる。

床につもった紙の雪にうずもれようとする子どもも現れ、職員もうずもれ隠れる手助けをする。15分位みんな夢中で楽しそうに遊んだ後は、いよいよ後片付けだ。みんな慣れて

いるのか、降り積もった紙の雪は、見る見るポリエチレンの袋の中に収まり、あっという間にきれいな元の保育室が戻ってきた。

(昼食)

昼食の時間、職員が並べたテーブルと椅子に向かい合って座って食べる。ほとんどの子どもが食べ終わって、お茶を飲んでおり、食の遅い子が何人か未だ食べていた。職員が、残している子どもに手を添えて飲ましたり、食べさせたり、一人でできる子はスプーンを掴んで上手に口に運んでいる。

食事が終わり、元気な子が椅子の上に立って遊び始めた。職員は優しく「危ないよ」と声をかけ、椅子に座らせる。

食物アレルギーのある子どもが一人、少しはなれたテーブルに座り、隣に座った職員と食べている。全員の食事が終わると、職員の合図でみんなで「ごちそうさま」とあいさつをする。

職員がテーブルを片付け、アルコールで床を拭き、布団を出し始める。

既に歯みがきを終わっている子どもは、早速パジャマに着替えようと自分で上着を脱いでいる。

(午睡)

寝付けない子には、職員が子どもの背中を叩いてやさしく睡眠を促している。保育室の照明を落とし、薄暗い静かな雰囲気が出来上がる。

◇2 歳児

(おやつ時間)

おやつが終わると、子ども達は自分で椅子を片付け、それが終わると壁際に並ぶ。職員が、これから始まるプール遊びの説明をする。プールに入れない子どもが2人、絵本を読んで過ごすように言われている。

プールに入る子は早速水着に着替え始める。自分で脱いだ服を上手にたたんでいる子どももいる。

(保育室での遊び)

ひもに大きさ 2cm~4cm くらいの穴のあいたおもちゃを通して作る首飾り作りをしている。職員が 60cm くらいのひもにおもちゃを一つ通し、ひもを両手で垂直に張ると、なんとカタクト落ちてくるエレベーターが出現。子どもたちは興味深そうに職員を見ていたが、子どもたちも、一本のひもにたくさんのおもちゃを通せるかに挑戦する。一生懸命に通して、一人の子どもは最高の 20 個をひも一杯に通し、みんなから拍手をもらい、得意そうだった。

◇3 歳児

(午前の様子)

10名程の園児が3歳児のフロアに既に集まっている。

中央に大きな箱が置いてあり、子ども達が囲んでいる。中には大きなカブトムシが2匹、元気良く歩き回っている。それを子ども達は興味深そうに覗き込んでいる。職員がカブトムシを取り出し、自分の身体につかまらせて子ども達に触ってみるように言う。虫が好きそうな子ども達は、目を輝かしてそっと手を出す子、掴もうとする子など大騒ぎしている。しかし、虫が嫌いらしい2、3人の子は、エリアの隅に肩を寄せ合って、中にはべそをかいている子もいる。職員が子ども達に「このカブトムシは雄か雌かどっちだ」と聞きながら、図鑑を取り出し、カブトムシの雄と雌の違いや特徴などを説明し、子ども達は聞きいていた。

(園庭での遊び)

園庭で、以前に植えたナスを収穫する。子ども達は帽子を被って並んで座り、職員からナスについて色や大きさなど説明を受けた後、めいめい玄関で靴を履き、園庭に向かう。園庭に着くと、早速子ども達はスコップを取り出したり、プラスチックの家に入ったり勝手に遊び始める。

職員がナスの植えてあるプランターを庭の真ん中に置き、子ども達を囲ませる。

ナスの葉にてんとう虫が1匹止まっている。一人の子どもが「これはてんとう虫だよ」と得意そうに話し、てんとう虫に話かけている。

職員が近くの子どもにはさみを持たせ、手を添えて一緒にナスを取る。2個収穫した。

収穫後、職員が園庭に3m程の円を描く。その周りを職員の笛に合わせ、走ったり、止まったり、座ったりのゲームを暫らく行う。皆にぎやかに走り回っている。止まらずに園児同士がぶつかって1人の園児が泣き出し、ぶつかった子は職員に言われる前に「ごめんね」と謝っている。

職員がしゃがんで子ども達と視線を合わせ、「これからお絵描きの時間なので、部屋に戻ろう」と言うと、もっと園庭で遊びたいと言い出し、職員はそれではもう少し園庭で遊ぼうと言うと、子ども達は歓声を上げ砂場やスコップ置き場に飛んで行く。狭い園庭だが、子ども達は本当に嬉しそうに砂遊びやおままごとを楽しんでいる。暫らくして、一人の子どもが「おしっこ」と叫んで、部屋の中にいる職員に窓を開けてもらい、トイレに飛んで行った。

(昼食)

いよいよ楽しい食事だ。職員がテーブルを取り出し、並べる。子ども達は各自、椅子をコーナーから持って来て、自分の所に置き座る。職員がテーブルの上をアルコール散布して、ナプキンで拭く。当番の子どもが、ワゴンからごはんとお茶を皆に配っている。職員が「oo

ちゃん、こぼれるから二つの手で運ぼうね」と注意をしている。当番の子ども達が4人みんなの前に並び、職員のキーボードの音楽に合わせて、給食の歌を歌って「頂きます」をした。

(合同 延長保育の時間)

自由遊びの時間。皆めいめい、絵本、プラレール、携帯電話、ブロックなど好きな玩具を取り出し、楽しそうに遊んでいる。職員は真ん中辺りに座り、子ども達を見守っている。絵本を見ていた子どもが、職員に「読んで」と本を差し出している。

(3、4、5歳児合同 延長保育 アンパンマン音頭)

3歳児が一斉に立ち上がり、一列縦隊の列を組み、隣の4、5歳児クラスへ向けて行進をはじめた。隣の4、5歳児クラスはすでに年齢別に2列の隊形を組んでおり、3歳児が合流すると合計3列の隊形が出来上がった。さあ、それから職員の伴奏で“お別れのうた”の大合唱で、職員やみんなにお別れのご挨拶をする。でも、未だお迎えが来ないのか誰一人帰らない。

それから、夏祭りで披露するというアンパンマン音頭の踊りの練習を、皆部屋いっぱい広がって開始。今日が初めての練習とのことで、CDコンポの演奏に合わせて1小節ずつ、繰り返し教わるが、みな覚えが早く、ものの15分位で一通りの基本の踊りの形を習得した。あとは、基本の踊りを何回も音楽に合わせて繰り返す。みんな、職員にほめられて満足そうに笑っていた。

◇4、5歳児

4歳、5歳合同で、リトミック前のひと時、カルタのように、絵が描かれたカードと文字が書かれたカードが沢山、床の上にばら撒かれている。2班に別れ、1班ずつカードの書かれた絵に合わせて、ひらがなの文字を集めるゲームをしたが、ちょっと難しい。カードの上に乗って、滑って遊んでいる子どもが多くなり、やり方を変更する。子ども達を二人1組にして、職員が夫々の子どもに指示を与えながら、カードを拾わせている。子ども達はそれなりに正解のカードを拾って職員に見せていた。

リトミックの時間

リトミックの講師がキーボードの前に立ち、大勢の園児が並び、講師の説明を聞いている。まず講師の弾く音楽に合わせてながら、リズムカルに手を叩く事から始まる。次に立ち上がり、同じく音楽に合わせて走ったり、講師が「休憩中」と言うと、走っている途中の恰好で停止したり、向かい合って座り、二人で拍手したりする。

次は、講師が絵本を子ども達に見せながら、空の星について説明する。

講師は「みんな、お星様になったよ」と言いながら、子ども達に鈴のついた小型のタンバリンを渡して、鳴らし方を教える。子ども達は講師の弾く音楽にあわせて元気に飛び跳ね

ながら、手をたたいたり、振ったりして、タンバリンの鈴を鳴らす。

16～17名の子ども達全員が、一人も離れることなく、楽しそうに飛び回っていたリトミックの時間であった。

リトミックが終わり、職員がテーブルをセットすると、子ども達がめいめい椅子を取りに行き、職員の方を向き座る。食事の前のお勉強だ。職員がひらがなが書かれたカードを子ども達に見せ、文字を読ませている。一人ずつ当てて答えさせるが、殆ど正しく答えていた。

(昼食)

職員がアルコールでテーブルの上を拭くと、当番の子ども達が配る。さすがに4、5歳クラスなので、職員の指示で当番の子ども達は混乱なく配膳する。

並べ終わると当番の子ども達が並び、職員の弾く音楽に合わせて「頂きます」をして食事が始まる。

量が多いと感じる子どもは、職員の所へ行き、ご飯やおかずの量を調節してもらう。

職員が時計を見て下さいと言い、「3」のところまでに食べようね、と子ども達に話し掛ける。

最初はお話しに夢中になってなかなか食事が進まない子どもがいて、職員に「お話しばかりじゃなく、ご飯も食べようね」と言われながら、皆おいしそうに食べている。食事は進み、早い子は自分で食器を片付け、歯ブラシを取りに行く。遅い子は部屋の隅にテーブルを移動されて、まだ食べていた。

(4、5歳 合同 延長保育の時間)

自由遊びの時間。子ども達はレゴブロック、お人形、おままごとなどで遊んでいる。各自自分のことに夢中になって楽しんでいた。

(4、5歳 合同 延長保育の時間)

自由遊びの時間。子ども達はレゴブロック、お人形、おままごとなどで遊んでいる。各自自分のことに夢中な感じで楽しんでいた。

平成 24 年度 横浜市第三者評価 事業者コメント (アスク上大岡保育園)

【受審の動機】

アスク上大岡保育園は、開園 7 年目を迎えました。今までの園運営を振り返り、今後の課題を見出すために有効な手段だと考え、毎年第三者評価を受審させて頂いております。開園初年度より、同じ評価機関に評価を依頼し一貫した調査を受けることで比較がしやすく、運営方針等も十分にご理解いただいた上で調査を実施していただけると感じています。今年度も、保護者のニーズを把握する絶好の機会、また、同時に職員が自己・自園を見直す良いきっかけになると考え、受審いたしました。

【受審した結果】

今年度は園長も代わり、私自信が保育園の運営を見直す良いきっかけとなりました。評価委員の皆様質問をぶつけられても上手く答えられない部分もありましたが、すごく勉強になりました。

毎年受ける事で私自身も、職員も保育を見直すよいきっかけになり、今後の保育に役立っていきたいと考えています。

最後に今回の受審にあたって、ご利用者調査にご協力いただいた在園児の保護者の皆様、ご尽力頂いた評価機関の皆様に心より感謝申し上げます。

アスク上大岡保育園
園長 村瀬 愛佳